

Title	博士課程の教育プログラムへの満足度等に関する調査 (JGRAD ウェブアンケート)
Author(s)	齋藤, 経史; 星野, 利彦; 梅川, 通久
Citation	年次学術大会講演要旨集, 36: 136-139
Issue Date	2021-10-30
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/17878
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

博士課程の教育プログラムへの満足度等に関する調査 (JGRAD ウェブアンケート)

○齋藤経史（科学技術・学術政策研究所），星野利彦（科学技術・学術政策研究所），
梅川通久（東京工科大）ksaito@nistep.go.jp

1. 調査概要

博士人材の活躍状況を把握するため、科学技術・学術政策研究所では博士人材データベース（JGRAD：<https://jgrad.nistep.go.jp/>）を構築・運営している。本稿は2020年3月～5月にかけてJGRADの登録者を実施したウェブアンケート調査「教育プログラムへの満足度等に関する調査」の結果をとりまとめたものである。

(1) 調査対象者

2020年3月25日時点でJGRADに登録している博士課程在籍者および博士課程修了者・退学者のうちメールアドレスが記入されている全員に調査を行った。なお、本稿においては、博士課程修了者と退学者を合わせて博士課程修了者等と表記する。また、2014年より整備を進めているJGRADは2020年3月において、49大学(国立大学35、公立大学8、私立大学6)が参加していた。

(2) 調査方法

調査依頼を電子メールで調査対象者全員に送付し、JGRADのウェブサイト上に設置したウェブアンケート(博士課程在籍者向け調査票または博士課程修了者等向け調査票)に回答を求めた。なお、調査依頼は日本語と英語を併記し、ウェブアンケートの調査票は日本語版と英語版を選択できる形式とした。

(3) 調査期間

2020年3月26日～2020年5月22日(当初4月30日を締め切りとしたが、延長)

(4) 回答者数

調査依頼メール送信の対象者数:21,207名

調査期間中のJGRADへのログイン者数:1,918名

回答者数:1,514名(博士課程在籍者866名、博士課程修了者等648名)

調査依頼メール送信対象者数に占める回答者数:7.1%

調査期間中のログイン者数に占める回答者数:78.9%

(5) アンケート調査内容

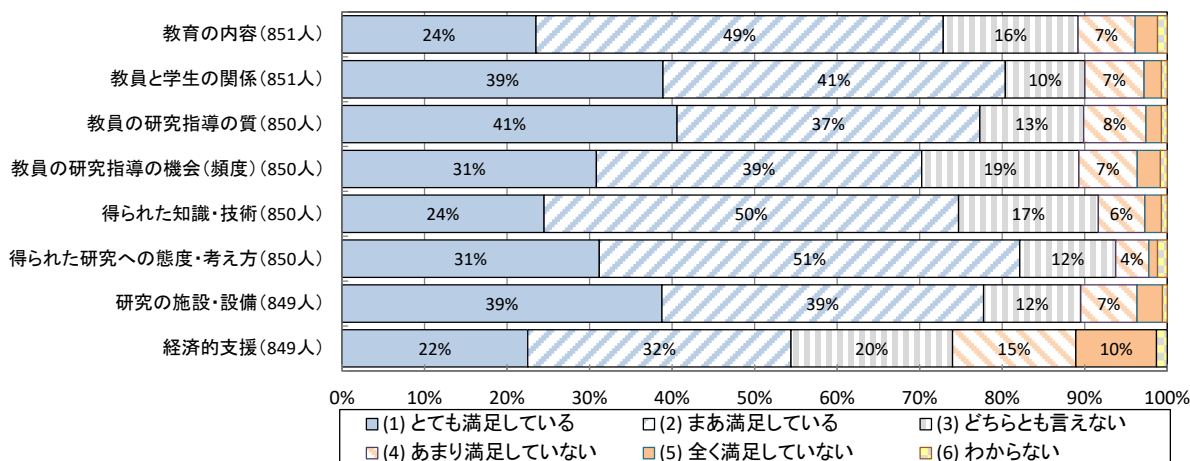
- 博士課程に進学した理由(博士課程在籍者のみ)
- 博士課程修了後に希望する就職先(博士課程在籍者のみ)
- 博士課程教育の現在の職務への寄与(博士課程修了者等のみ)
- 博士課程で身につけたい能力/身についた能力(在籍者・修了者等共通)
- 博士課程の専門分野に関する満足度(在籍者・修了者等共通)
- 博士課程で印象に残ったこと(博士課程修了者等のみ)
- 博士課程の専門分野以外に関する満足度(在籍者・修了者等共通)
- 博士課程教育関連プログラムに関する満足度(在籍者・修了者等共通)
- 博士課程のプログラム全体の満足度(在籍者・修了者等共通)

- I. 本稿の調査結果は日本語調査票への回答と英語調査票への回答を合算し、JGRADのデータベースに記録されている属性情報と照合し、集計したものである。
- II. 本稿で示す専攻分野は学校基本調査を参考に、各回答者が在籍した博士課程の研究科に基づく[人文(科学)][社会(科学)][理学][工学][農学][保健][教育][その他]である。
- III. 博士課程在籍者は「博士課程教育リーディングプログラム」「卓越大学院プログラム」の該当・非該当に区分した。また博士課程修了者等に関しては、博士課程の在学時における「博士課程教育リーディングプログラム」の該当・非該当に区分した。
- IV. 博士課程修了者等に関しては、JGRADに記録されている所属機関の情報に基づき[回答時に「大学等」に所属][回答時に「民間企業」に所属]に区分している。なお、回答時の所属機関が大学等、民間企業のいずれにも該当しない場合および回答時の所属機関が不明な場合は、当該回答は2種の区分のいずれにも含まれない。

2. 調査結果概要（博士課程の専門分野に関する満足度）

博士課程在籍者および博士課程修了者等に対して、博士課程プログラム(専門分野)に関する8つの側面の満足度を尋ねた。図表1は、博士課程在籍者の博士課程プログラム(専門分野)に関する各満足度の回答割合である。[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合が最も高かったのは得られた研究への態度・考え方の82%(850人のうち698人)であった。一方、[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合が最も低かったのは経済的支援の54%(849人のうち462人)であった。

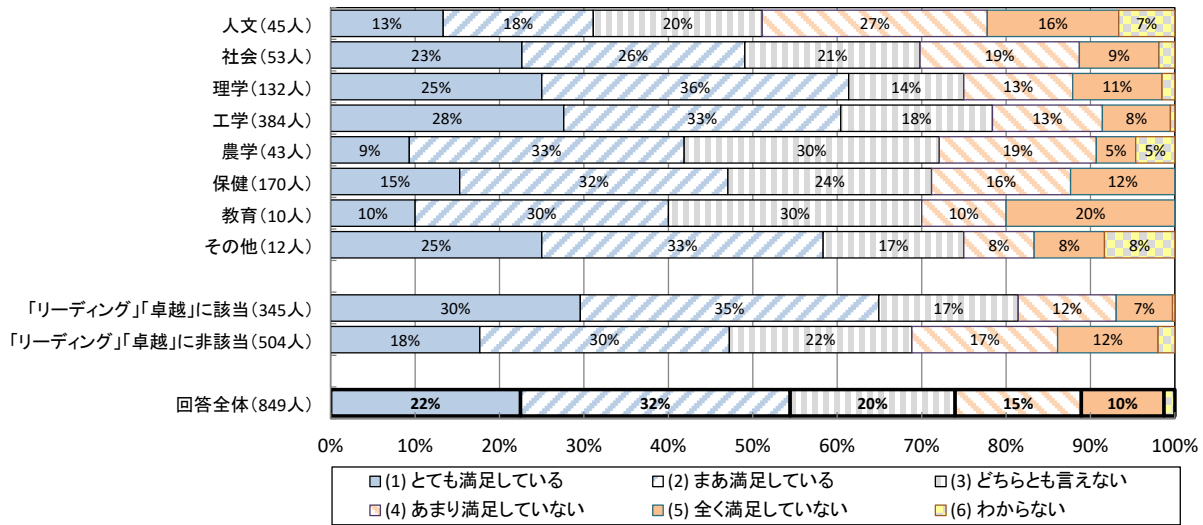
図表1 博士課程の専門分野に関する各満足度の回答割合<博士課程在籍者>



図表2は、博士課程在籍者の博士課程プログラム(専門分野)における経済的支援についての満足度に関する属性別回答割合である。回答全体では、[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合が54%(849人のうち462人)となっていた。[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合は、「リーディング」「卓越」に該当においては65%(345人のうち224人)である一方で、「リーディング」「卓越」に非該当においては47%(504人のうち238人)であった。博士課程在籍者の経済的支援に関する満足度において[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合は、「リーディング」「卓越」の該当の有無によって、有意な差があった¹。

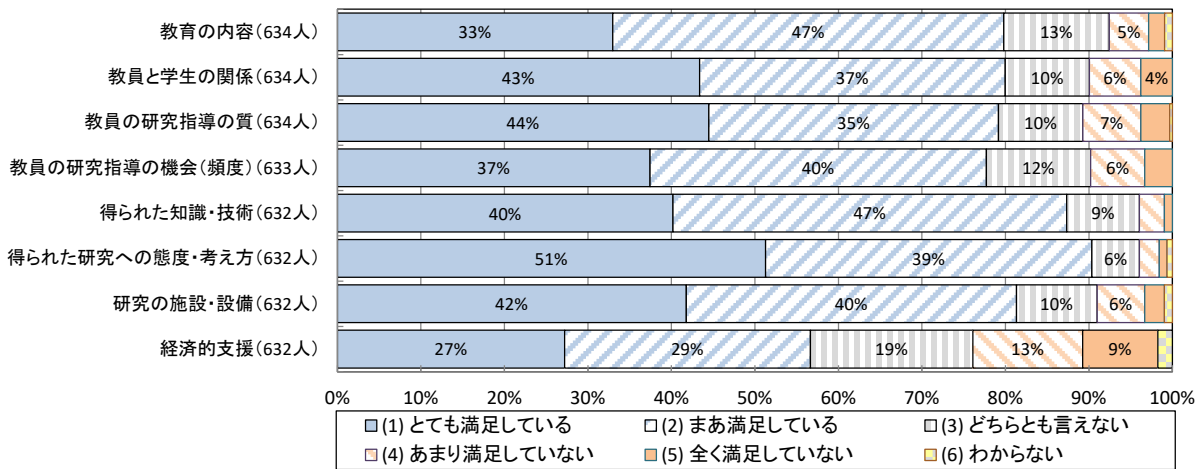
¹ 「リーディング」「卓越」に該当と「リーディング」「卓越」に非該当の二群において、[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合とそれ以外の回答の合計割合によって母比率の差の検定を行ったところz値は6.09となり、両側0.01%水準においても母比率が等しいという帰無仮説を棄却できる。

図表 2 属性別: 専門分野における経済的支援の満足度(博士課程在籍者)



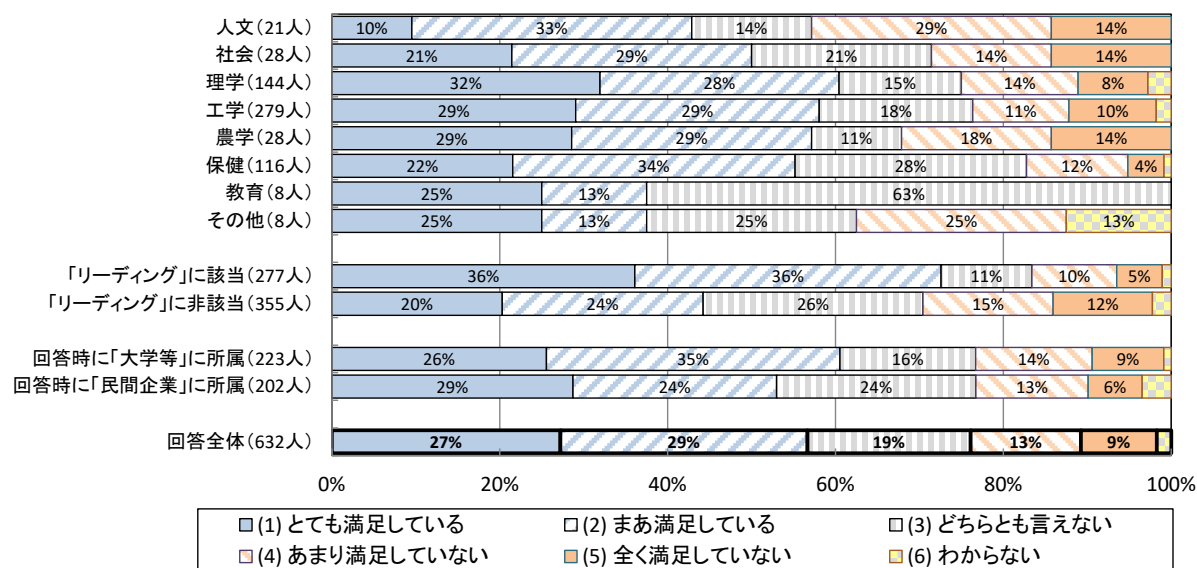
図表 3 は博士課程修了者等の博士課程プログラム(専門分野)に関する各満足度の回答割合である。[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合が最も高かったのは得られた研究への態度・考え方の 90%(632 人のうち 571 人)であった。一方、[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合が最も低かったのは経済的支援の 57%(632 人のうち 358 人)であった。

図表 3 博士課程の専門分野に関する各満足度の回答割合(博士課程修了者等)



図表 4 は博士課程修了者等の博士課程プログラム(専門分野)における経済的支援についての満足度に関する属性別回答割合である。回答全体では、[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]が57%(632人のうち358人)となっていた。[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合は、「リーディング」に該当においては73%(277人のうち201人)である一方で、「リーディング」に非該当においては44%(355人のうち157人)であった。博士課程修了者等の経済的支援に関する満足度において[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合は、「リーディング」の該当の有無によって、有意な差があった²。

図表 4 属性別:専門分野における経済的支援の満足度(博士課程修了者等)



公表資料

齋藤経史, 梅川通久, 星野利彦 「博士課程の教育プログラムへの満足度等に関する調査—2020年における博士人材データベース(JGRAD)ウェブアンケート調査—」, 調査資料 No.302, 文部科学省 科学技術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm302>

² 「リーディング」に該当と「リーディング」に非該当の二群において、[回答(1) とても満足している]と[回答(2) まあ満足している]の合計割合とそれ以外の回答の合計割合によって母比率の差の検定を行ったところ z 値は 7.13 となり、両側 0.01%水準においても母比率が等しいという帰無仮説を棄却できる。